

犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を目指して 社会を明るくする運動住民集会開催

7月10日、第67回白鷹町社会を明るくする運動住民集会が町健康福祉センターで開かれ、関係者など約80人が参加しました。

この運動は、犯罪・非行の防止及び罪を犯した人たちの更生について理解を深め、地域ぐるみで力を合わせて安全・安心な地域社会を築くことを目的としたもの。この日は、県立荒砥高校の前校長である佐藤まり子さんによる講演と、昨年実施された第66回社会を明るくする運動山形県作文コンテストにおいて最優秀賞に選ばれた丸川和紗さん（白鷹中2年）、同優秀賞に選ばれた平吹和花奈さん（長井高1年）による作品発表が行われました。



「化学実験室から眺めてきた社会—女の子にも男の子にも希望の持てる社会に—」と題して講演する佐藤さん。参加者と一緒に“実験”しながら講演に耳を傾けた

祝・開業10周年 四季の郷駅夏の感謝祭を開催

四季の郷駅では7月1日、四季の郷駅で楽しむ会による恒例の七夕飾りまつりと、開業10周年を祝した記念花火大会が開催されました。

今年も駅には色とりどりの七夕飾りが取り付けられ、特設ステージでは町内のダンスグループ「マルベリーズ」と、小山沢出身の大木実さん率いる「ザ・ロマンスター」が歌やダンスで会場を盛り上げました。その後、日が落ちるのに合わせて「祝10」象るキャンドルが点灯。山形鉄道フラワー長井線が駅に到着すると、夏の夜空に大輪の花火が打ち上げられました。



1_開業10周年を祝うキャンドルライトが温かく灯った 2_例年以上に多くの地域の人が集まった四季の郷駅前会場

地域に残る文化に触れる 町内の小学校で天蚕観察会

蚕桑小学校の3年生18人と鮎貝小学校の3年生33人が7月24日、深山地区で天蚕の観察会を行いました。

この企画は、町内の子どもたちに町の特産品を知ってもらおうと、しらたか天蚕の会（須田信一会長）が毎年実施しているもの。児童たちは、大きく丸々と成長した天蚕の幼虫や繭を見つけると、それを興味深そうにじっと観察。「どうして緑色をしているのか」「なぜ逆さまにぶら下がっているのか」などといった質問が上がり、一人ひとりが地域に残る貴重な文化に触れました。



目を輝かせながら“町の宝”を観察する児童たち